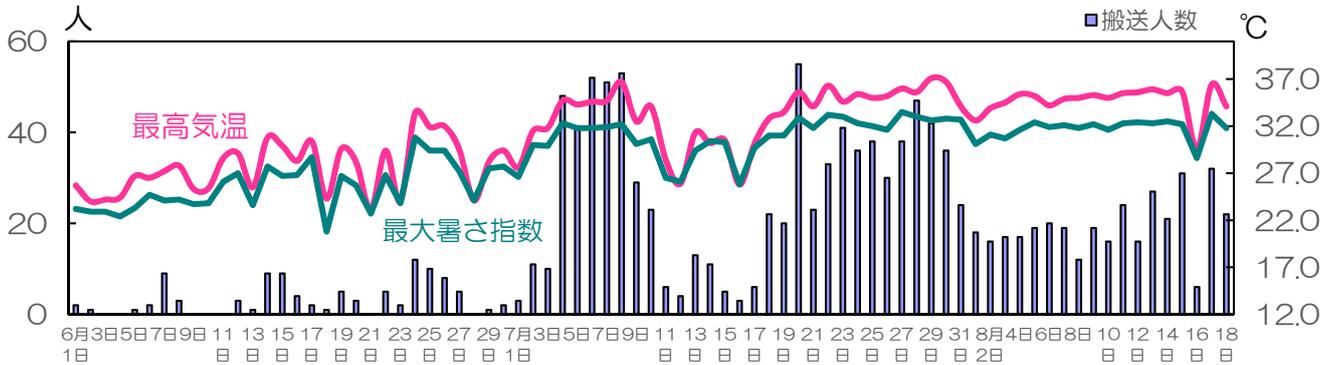


熱中症情報

<搬送数>

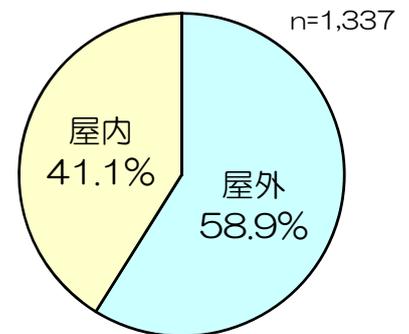
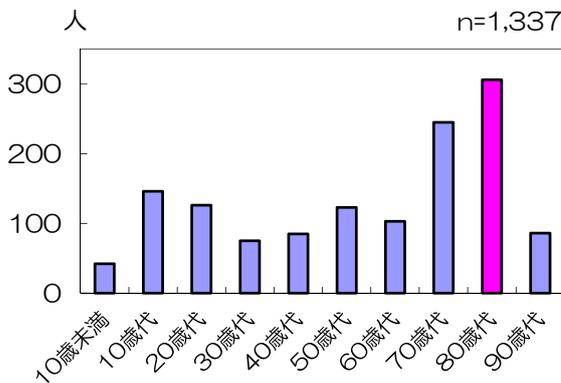
令和6年4月29日～8月18日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,337人（4月0人、5月31人、6月100人、7月854人、8月352人）でした。7月4～8日は、最高気温34.3℃以上、暑さ指数31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しました。7月20日は、最高気温35.6℃、暑さ指数32.9℃、搬送数が54人と、期間内で最多を記録しました。8月に入り、搬送数は7月よりは減少していますが、猛暑日には、30人以上/日の日もあり、依然として注意が必要です。



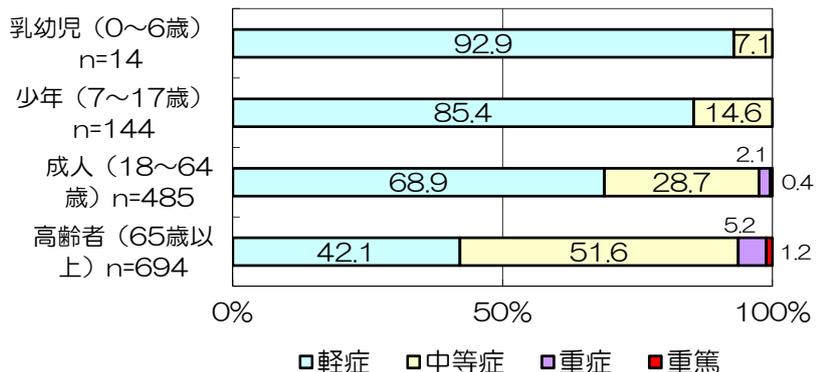
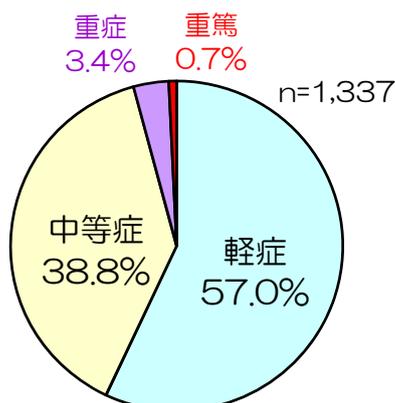
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。特に、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が306人(22.9%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外58.9%、屋内41.1%で、次が70歳代で245人(18.3%)でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度* > 軽症57.0%、中等症38.8%、重症3.4%、重篤0.7%でした。高齢者で中等症以上の割合が57.9%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。